

戦争法案を廃案に！安倍政治を許さない！

八・三〇のおおさか集会

国会十万人、全国で百万人がたちあがろう！と呼びかけられた八月三十日。十二万人の怒りの声が国会周辺を埋めつくしました。大阪では各界各層の著名人が呼びかけ人となり三万人集会が呼びかけられました。

扇町公園には二万五千人が結集、港合同からは約四十人が参加しました。午後四時に集会開始、その後も人々が次々と押し寄せ、公園は立錐の余地ない程、人、人、人で埋まりました。参加者を大



音量で威嚇していた右翼の宣伝力も鳴りをひそめ、「戦争法廃案！これこそ民意だ！」と、力強く突きつける集会となりました。

集会の司会を若い学生二人が担い、若者や子ども

もの参加者も増え、層の広がりを実感。「個人参加」と書いたのぼり旗が何本も用意され、「いてもたってもいられない」思いでかけつけた方々も多かったようです。集会では呼びかけ人、政党代表など多くの発言があり、どれも怒りと力のこもった内容でした。大学院で学ぶ在日朝鮮人の女性は、「私は一国民としての選挙権は無いが市民として反対行動をしています。アジアへの加害の歴史と向き合い、『慰安婦』を

生み出すような歴史を再びくり返してはならないと思います」と発言。三色旗を掲げて登壇したのは創価学会会員の女性。「平和の党」であった公明党の変質を厳しく弾劾する発言に参加者、マスコミの耳目が集中しました。学会内部で批判と抗議の声が広がっている様子を報告しながら、弾圧に命をかけて闘い、信念を貫いた先達の遺志を今こそ思いおこし、行動に立ちあがるべきと熱く、切々と訴えました。

デモは三コースに分かれ、港合同は中崎町コース。近いはずが、終着点についたのは六時四十分

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！



でした。参加した組合員は「車の中から手を振ってくれたり、沿道から声援があつたり、ほんまに元気がでる集会やった」「参加できてよかった」「この潮を引かせたらアカンね」など等。

小異を越え、さまざまな団体やグループが一堂に会して一つの行動を実現できたことは、安倍政

権に大きな打撃を与えました。が、九月第二週には強行採決辞さずの姿勢を変えていない安倍首相。さらに行動を広め、追い込んでいかなければ!と決意を新たにしました。

「動員だから」とか「動員がかかっているから」とか、受け身の組織・運動のあり方では安倍政治に対抗できません。さらに大阪では橋下・松井・新党維新との対決が控えています。「独裁と戦争」を許していいのか、その先に自分の、家族の暮らしが、命が、人生がどうなっていくのか? 今、一人一人が感性を研ぎ澄まし、歴史から学

び、想像力を働かせ、どう生きるべきかを真剣に考えるときではないでしょうか。その結果集した力こそが社会を動かします。

戦争法案廃案! ともががんばりましょう。

【編集委員 〇】

9.13

とめよう! 戦争への道
めざそう! アジアの平和
2015年関西のつどい

SAN

場所: 中ノ島 中央公会堂大ホール
時間: 13:30受付 14:00開会 デモ16:00~
資料代: 500円

山口二郎
「戦争法案と闘いの意義」

屋良朝博
「つくりだされる沖縄との温度差」

私たちは、新たな「戦前」のただ中に立たされています。.....

与党は7月16日、安倍政権の戦争法案(戦争法)を衆議院で強行採決しました。民意を無視する安倍政権の強硬姿勢に対する怒りの声はとんだん広がっています。戦争法案は明らかに違憲であり、強行採決は憲法9条と立憲主義を根こそぎ破壊する暴挙です。戦争法案は、戦後70年間の戦争を止めた平和憲法を、アジアの憲法とともに海外で武力を行使し、押し進められる戦争する国へと大きく変える。まさに戦後憲法の根幹を揺るがす.....

高まっています。現場では、強法に屈せず闘い続ける市民が映り出されています。市民知事は、公有水産庁的立て承継について、第3審委員会「法的に問題があつた」との報告を受け、取り消す動きを強めています。人権と自己決定権の尊重を求めて、国議で安倍政権の命運を揺るがせる準備も進んでいます。こうした動きなどにより、安倍政権は存続を1か月程度せざるえなくなりました。沖縄の闘いと法の尊厳を求め、新基地集中の構造的差別を強める新基地建設の動きに対し、沖縄は高くその闘いが建設を止めよう!

.....沖縄と共に、「戦争あかん、墓焼いたらん」の声を大きく広げていきましょう!

8・30国会包囲10万人行動

国会周辺を埋めつくした12万の人々。「アベはやめろ!」の音が轟く。



組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう!